

蕨 5 広報WARABI

2010/平成22年
わらび・704

- 平成22年5月1日発行 / 発行所・蕨市役所
- <http://www.city.warabi.saitama.jp/>
- 蕨市の面積 5.10km²
- 4月1日現在人口：71,979人 前月比 -10人
男 36,800人 女 35,179人
世帯数：35,775
人口密度：14,113人/km²



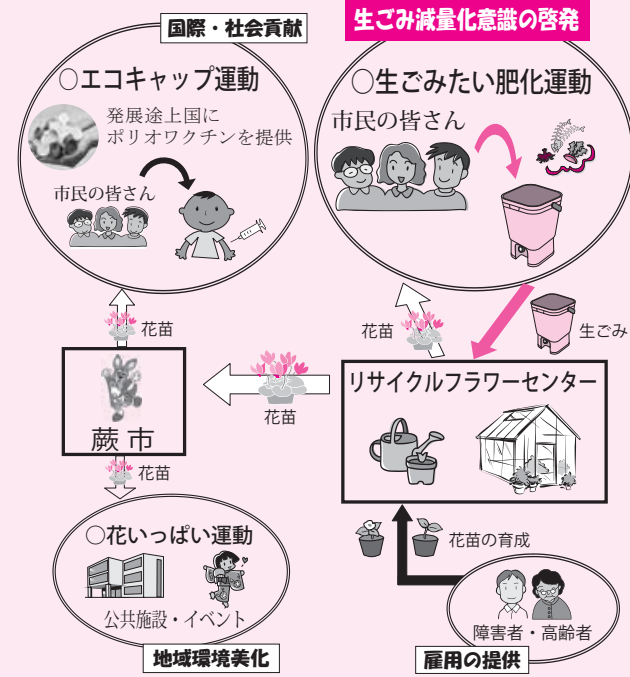
専用バケツで生ごみたい肥化 持参した人に花苗プレゼント

21日開設のリサイクルフラワーセンターは、専用バケツでたい肥化した生ごみと花苗を交換できる施設。上写真は、センターで花を育てる地域活動支援センター「糸ぐるま」の皆さん。生ごみのたい肥化(左写真)は、一部町会の協力で試験的に始めています。詳細は2、3面で。

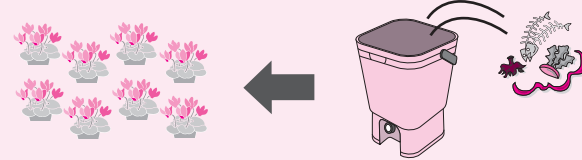
目次

- 特集：生ごみの資源化…… 2
- チャレンジデー2010…… 4
- ほっと・エッセイ…… 6
- 蕨おりひめ会マスコットの
愛称募集…… 6
- わが家のアイドル…… 7
- 輝いていまひと…… 8
- ぶらっと・わらび・小さな旅…… 8

環境・福祉・国際貢献・花のまちづくり



生ごみと花苗の交換方法



専用の生ごみ回収バケツを希望者に貸し出します

- ・月に1回、生ごみがたまった回収バケツをリサイクルフラワーセンターへお持ちいただき花苗8鉢と交換します。
- ・お花はお庭やプランターなどで3～4か月楽しめます。

取り扱い上の注意

- ・管理が不じゅうぶんだと腐敗します。生ごみを入れる度に、必ず「ボカシ」を1つかみ入れてください。
- ・トウモロコシ、たけのこの皮、硬い貝殻、タマネギの表皮などはたい肥にできませんので入れないでください。

生ごみ回収バケツ・ボカシの貸出場所

リサイクルフラワーセンター

申し込み・問い合わせ

安全安心推進課生活環境係 ☎443・3706



苗の生長に自然と顔がほころびます

年間約100トの生ごみをたい肥化する設備を備え、敷地面積約8750平方メートルの中にある、広さ66畳ほどの3つの温室で、サルビアやダリア、ニチニチソウなど60種類以上の花苗を年間約8万鉢（蕨市分は3万2000鉢）生産していく予定です。

また、見学者のための管理棟やビオトープなどには、できる限り再生品を使用。自然育成園なども備え環境教育にも役立つ施設となっています。

更に、同センターは、比較的軽作業が多く、安全性も高いことから、知的障害・精神障害のあるかたにも積極的な社会参加をしていただける施設になっています。種をまいたり移植をしたりと意欲的に花苗を育てている姿が印象的です。

生ごみたい肥実践を

市では、こうした生ごみの軽減や雇用の提供などに加え、各ご家庭の生ごみと花苗を交換することで、まちを花いっぱいしようと計画。先月から試験的に、生ごみのたい肥づくりに取り組んでいただけるご家庭を募集して、ご協力をいただいています。

今後は、市民の皆さん1人1人にも、生ごみのだい肥化を実践していただくよう、専用の回収バケツを用意しました。ご家庭で水気を切った生ごみに「ボカシ」と呼ばれる腐敗防止材をまぶし、市が貸し出すバケツに入れてため、1か月ごとにリサイクルフラワーセンターへお持ちくださいます。育てた花苗8鉢と交換します。（右上囲み参照）。

花いっぱいのもちへ

市内各地域では、自分たちのまちは自分たちできれいにしようという、ボランティアの皆さんが、清掃や花壇の手入れなどの美化活動を行っています。こうした活動を積極的に支援していこうと、市では、同センターで育てられた花苗を公園や花壇、イベントなどでもお配りしようとする準備

を進めています。ほかにも、ペットボトルのふた、通称エコキャップ100個と花苗1個を交換するしくみも始めていきます。これは、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを送る活動の促進にも役立てようというもので、4か月に一度、各公民館を巡回して花苗と交換します。こちらもぜひご参加ください。なお、1回目の交換は6月下旬を予定しています。ごみをごみとして捨てるのではなく、資源として有効活用する、こうした取り組みを進めるには、市民の皆さん1人1人の協力がなによりたいせつです。花いっぱいの安全安心、きれいなまちづくりをみんなで進めていきましょう。



地域の皆さんがまちを花いっぱい

■花壇や沿道の草花たいせつに／ボランティアが環境美化の一環で草花を育てています 花を抜いたりごみを捨てたりするのはやめましょう



特集：生ごみの資源化

生ごみを花に換える
リサイクルフラワーセンター

蕨市が共同でごみを処理している蕨市衛生センター組合では、ごみの資源化を更に進めようと、今年21日、敷地内埋め立て跡地にリサイクルフラワーセンター（戸田市美女木980）を開設します。そこで今月は、同センターの概要と、今後、市で進めていく取り組みについてお伝えします。

21日開設の再生施設

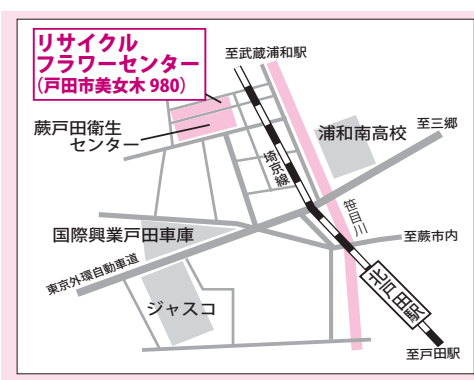
蕨市が共同でごみを処理している蕨市衛生センター組合では、アルミ缶やペットボトルなどのリサイクルや、粗大ごみとして搬入された家具の再生など、ごみの資源化を進めています。

同組合では、こうしたリサイクルへの取り組みを進めていくと同時に、分別化への意識を更に高めていただくよう、今年21日、リサイクルフラワーセンターを開設します。

花苗約8万鉢を生産

生ごみはこれまで、ほとんどが焼却処理されています。同組合に搬入された燃えるごみは、平成21年度で約3万3200ト。その内約27%、9000ト近くが生ごみです。燃やして処理するごみの中でも、水分を多く含んだ生ごみを減らすことは、環境への配慮や焼却費用を抑えるため

にもとめてたいせつです。そうした課題への取り組みの1つとして開設する、リサイクルフラワーセンターの事業は、分別してお持ちいただいた生ごみをたい肥に変え、花苗の肥料にする、全国的にも新しい試みです。



埋め立て跡地を有効利用

■市町村別に気象警報発表／27日から 大雨・洪水などの気象警報・注意報を市町村単位で発表します 詳細＝熊谷地方気象台 ☎048・521・5858

前回の様子をプレイバック

市制50周年を記念し初参加した蕨市は、大阪府柏原市と対戦。市民と行政、企業も一体となって健康づくりに取り組み、参加者43,555人、参加率61%を記録。大健闘でした。



「わらックス体操」で準備運動



大型スーパーでもイベント開催



いつもより多めに跳んでいます



新緑の市民公園でエクササイズ



次こそは、勝って蕨の市旗を…

当日はだれでも参加できるイベントを開催



●市民体育館／太極拳や健康体操ほか、全館を無料一般開放。事前申し込みは不要。運動できる服装でご参加を。

●市民公園／3B体操や親子体操など

なお、各会場では参加者に「チャレンジデーオリジナルタオル」を差し上げます。

参加登録はお近くの公民館か電話やメールで



二次元バーコードは一部の携帯電話で利用いただけない場合があります。

26日の午後9時までに「わらびチャレンジデー2010参加登録（事前・当日）票」を公民館や市役所1階市民活動推進室などにある集計ボックスに入れてください。登録は、電話やファクシミリ、携帯電話のメールからでもできます。詳細はチャレンジデー実行委員会事務局（☎433・7730 FAX 433・7731）へ。



2月22日に行われた抽選会

意識」と「まちへの愛着」がどれほど強いかが、勝利のきざりとなります。

対戦相手は大牟田市

さて、気になる対戦相手ですが、抽選の結果、福岡県大牟田市に決定しました。

人口約12万7000人の大牟田市は、チャレンジデーへの参加は5回目、前回の参加率60・5%と、なかなかの強敵。でも、蕨市だって前回は、参加率61%を記録。相手にとって不足なしです。

参加には登録が必要

「チャレンジデー」への参加には登録が必要です。現在、その事前登録を行っていません。詳しくは『広報蕨』今月号に折り込みの「ちらし兼参加登録票」を御覧ください。「チャレンジデー」の趣旨に賛同し、26日に、運動する予定の個人・団体の皆さんは、ぜひ、登録をお願いします。また、当日は、市民体育館



今年もワラビーが勧誘に回ります

特集：スポーツで健康づくり まちづくり

わらびチャレンジデー2010

26日(水)

午前0時～
午後9時

市民の皆さん、26日はいつもよりちょっと意識して体を動かしてみませんか。15分以上運動した人の参加率をまちどうして競い合うチャレンジデー。今年も蕨は参戦します。

愛犬の散歩でも参加できます



チャレンジデーとは

みんなで健康づくりに取り組む日、それが「チャレンジデー」です。その昔、カナダでは、みんなでスポーツや運動を行う日を1日設けたところ、その後のスポーツ人口が増えたそうです。

この取り組みや考えが世界中に広まり、毎年5月の最終水曜日を「チャレンジデー」として、世界各地で住民総参加型のスポーツイベントが開かれるようになりました。

市制50周年だった昨年、蕨市はこの催しに初参加。まちぐるみで健康づくりに取り組み、1人1人が健康への意識を高めるよいきっかけとなりました（5ページ写真）。

そして、今年は蕨市体育協

会、蕨市レクリエーション協会が中心となり、「スポーツで健康づくり まちづくり」のキャッチフレーズの下、26日、この「チャレンジデー」に再挑戦します。

15分間の健康づくり

スポーツイベントといっても、なにか特別なことをするわけではありません。「チャレンジデー」のルールはとっても簡単です。

当日の午前0時から午後9時までの間に、15分以上、運動を行うだけです。スポーツに限らず、自宅でストレッチや健康体操、通勤・通学、お買い物で歩く、家の周りを掃除するといった体を動かすことも運動になります。

ユニークなルールも

そして、このチャレンジデーのだいご味は、参加している自治体、地域どうして運動した人の割合を競うことです。負けると、対戦相手のまちの旗を市役所に1週間掲げなくてはなりません。でも、勝てば蕨の旗が相手市役所のメインポールに…。これは、私たちのまち蕨を、全国にアピールする絶好のチャンスです。市民の皆さんの「健康への



大牟田市ってどんなまち？

大牟田市は、福岡県の南部、有明海と熊本県の県境に位置し、人口約12万7000人、市域面積は81・55平方キロメートル。

有明のりや、かすてら饅頭の産地、日本カルタ発祥の地として有名です。

健康の輪を広げたい

15分以上体を動かせばだれでも参加できる「チャレンジデー」。参加率を自治体どうして競うため、まちの連帯感も深まります。昨年に引き続き2回目の今回は、初勝利を目指すとともに、イベントを通じて市民どうしの交流、健康の輪が広がればと思います。ぜひ皆さん、ご参加ください。



チャレンジデー実行委員会
おくだ まさとし 委員長
奥田 昌利 委員長



この心花ちゃん
(1歳3か月)

きむら だいすけ
木村 大輔さん
奈保子さんの
長女

塚越4丁目

わが家のアイドル

—458—

ま ち の 話 題

「心花は、気がつく、玄関から靴を持ってきては私を見上げ、外に行きたいとせがむんです。これが心花と私のお遊び時間スタートのサインです。お気に入りの公園に着くと、真っ先に砂場に向かう心花。私が作った砂山を、小さなシャベルで掘

っては山を崩す遊びに夢中です。こうして砂だらけになった洋服を洗濯するのはたいへんですが、成長を感じられるよう、うれしくなります。私自身運動が大好きなので、心花も元気いっぱいに育ってほしいですね」と話す、母親の奈保子さん。

この数な～に 80.9%

厚生労働省が主要水道管(基幹管路)の耐震を全国調査したところ、震度6強程度の揺れに耐えられる主要水道管の耐震化率は100%の自治体もあれば逆に0%の自治体もあることが分かりました。その結果が新聞で報道されたこともあり、先月の市長タウンミーティングでは、蕨市の耐震化について市民から質問が寄せられました。蕨市の主要水道管の耐震化率は80.9%。また浄水場の耐震化工事や耐震性貯水槽の市内全5地区への設置など積極的に災害に強いまちづくりを進めています。

締め催しで飛躍誓う



市制50周年の「クロージングセレモニー」を、3月28日、市民公園の「桜まつり」に合わせて開催。東中吹奏楽部の演奏で始まった式典では、記念事業の報告や来場者が寄せ書きした記念旗の紹介、バルーンリリースなどが行われ、50周年を節目に更なる飛躍を誓いました。

紙パックではがき作り



科学の楽しさを知ってもらおうと、4月1日、南公民館で「子どもサイエンス」が開かれました。小学生8人が地域の人に教わりながら、紙パックからはがき作りに挑戦。緊張しながら紙をすき、はがきが完成すると、笑顔の子どもたちは早速、大事なものへ手紙を書きました。

みんなで迎えた新入生



新入生に早く学校生活に慣れてもらおうと、4月14日、中央小学校で「1年生を迎える会」が開かれました。会場の体育館では、上級生が企画したクイズやダンスなどで全校児童が交流。お兄さんお姉さんの温かい歓迎を通じて、1年生54人は終始笑顔を広げていました。

タウンミーティング開催



市民の皆さんと市長が直接語り合う「市長タウンミーティング」が4月10日から18日までの間、各地区の公民館で開かれました。頼高市長から新年度予算や事業の説明があった後、たくさんの皆さんからまちづくりへの活発なご意見をいただきました。参加者289人。

男性も楽しく育児参加



男性の育児参加を促そうと募集した「第1回わらびのイクメンを探せ」フォトコンテストの表彰式が4月18日、北町公民館で行われ、応募112点から5部門を表彰。満面の笑みで入浴する夫とお子さんを撮影した錦町在住の村川由紀子さんの作品が大賞に輝きました。

ほっと・エッセイ 30

こどもの日

市長 頼高 英雄

5月5日は「こどもの日」です。法律によれば「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」とあります。

私たち大人が、子どもの幸せのために努力することは当然ですが、子どもの存在そのものが私たちに幸せな気持ちにさせてくれる、これが、子育てでもある私の実感です。先日、スペースシャトルに搭乗し無事帰還した、



市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。
今月は6日、6月は3日です。
時間は午後1時～5時を予定しています。
ご希望のかたは秘書広報課
(☎433・7701) へ



笑顔広がる商店街に

このかわいらしい女の子は「蕨おりひめ会」のマスコットキャラクターです。かつて、宿場町として栄え、織物業が盛んであった蕨のまちに、よく似合います。

優しい笑顔で商店街の活性化をお手伝いしてくれる、こちらのキャラクター。今回は、皆さんにすてきな愛称を付けていただくとうと、『広報蕨』に登場してもらいました。応募要領は最後にご案内するとして、まずは皆さんのイメージが膨らむように、キャラクターを制作された「蕨おりひめ会」の会長・滝澤孝子さんにお話を伺いましたので、下段を御覧ください。



蕨おりひめ会
会長・滝澤孝子さん

お客様が、商店街で快適に、楽しくお買い物をしていただけるようにお手伝いするのが、この「蕨おりひめ会」です。市内事業所の女性有志で2年前に結成し、現在、会員は40人。女性の目線を生かした、きめ細かなサービスを展開中です。また、織物のまちとして、全国に知られるきっかけとなった「双子織」が、1糸1糸丹念に織り込まれているのと同じように、人と人との縁を大事にしながら活動を広げています。キャラクターといつしよに親しまれ、愛され続ける「蕨おりひめ会」を目指しながら、少しでも商店街活性化のお手伝いができればと考えております。ご来店の際には、気軽に声をかけてください。 ※「蕨おりひめ会」のメンバーも募集しています。

蕨おりひめ会マスコットの愛称募集

応募は今月20日まで

応募条件／皆様に親しんで呼んでいただけ、会のイメージに合った愛称
応募資格／市内にお住まいかお勤めのかた
募集期間／今月20日まで
発表／8月を予定
※名付け親とご応募いただいたかたの中から抽選で、数名様にお買い物券をプレゼント。
応募方法／氏名・住所・電話番号・年齢・マスコットの名称を書き、はがき、ファクシミリ、Eメールで商工生活室(〒335-8501 中央5-14-15) ☎433・7490 Eメール shouko@city.warabi.saitama.jp
※お送りいただいた個人情報 は厳重に管理し、応募に関するご連絡以外にはいつさい使用しません。また、ご応募いただいた名称の著作権は、「蕨おりひめ会」に帰属するものといたします。
問い合わせ 商工生活室 (☎433・7750)

情報ダイヤル

〔無料で差し上げます〕
▼介護用ベッド(シングル) 15年前に購入 取りに来れる人へ川島 ☎442・1698
▼参加しませんか ちびっこカンパニー体験!!
29日 午後1時 市民体育館 無料 4歳～中学生へ蕨中東カンパニークラブ・吉田 ☎090・9812・6620
〔仲間になりませんか〕
▼実用書道クラブ 第1・3火曜日 午後1時 下蕨公民館 月2000円(教材費別)
▲高橋 ☎432・3280
▼ハイビスカス(フラダンス) 水曜日 午前10時 下蕨公民館 月2000円(奥谷 ☎442・8748)
▼ヨイガシャントイ 月4回 木曜日 午後1時半 中央公民館 月2000円(小宮 ☎431・2443)
▼蕨中東カンパニークラブ(中国武術) 土曜日 午前10時 中央東小学校 月3000円 4歳以上どなたでも(吉田 ☎090・9812・6620)
▼ヨイガでさわやか 月3回 日曜日 午前9時 中央公民館 月1500円 性別年齢不問(根津 ☎443・1656)
▼マミーキッズ(親子体操) 月3回 金曜日 午前9時45分 市民体育館 月1000円
☎090・4753・1958
▼中級中国語クラブ 木曜日 午後1時 旭町公民館 月2000円 留学気分(中国語) 小出 ☎445・8600

ひと 輝いています

青少年有害情報パトロール隊隊長

藤川 昌弘 さん

中

央公民館のパソコンルーム。真剣な表情でモニターの情報に目を光らせているのは、

藤川昌弘さん（69歳・南町2丁目）です。インターネットの掲示板などいじめの書き込みを監視しようとして、先月2日から本格始動した「青少年を有害情報から守るパトロール隊」の隊長です。

蔵に移り住み約30年。銀行退職後は、それまで疎遠だった地域活動に積極的に参加しています。日ごろから市内に住むお孫さんや、公民館の講座

地域で守る子どもたちの成長



「青空とみどりの教室」で子どもたちと触れ合う機会が多く、新聞などのいじめ報道を見る度、もし身近な子どもたちが同様の被害に遭ったら、と心を痛めていました。それが、隊発足のきっかけとなったそうです。

初パトロールでは、書き込みが発見されなかったことに胸をなでおろす藤川さん。使命感の強さから、はつきりとした口調で、「被害者も加害者も出したくないんです。こうした監視をすることで、いじめの抑止につながれば」と語ります。

隊員は全7名で、皆さんボランティアとして月1回活動し、これからは、隊員の増員、実施回数の増加、行政との連携強化を検討しています。「地域を明るくするには、子どもたちの笑顔がたいせつなんです。活動を通して地域の大人がみんなを見守っているというメッセージを伝えていきたい」と語る藤川さん。その柔らかな表情のなかにも、厳しいまなざしがあり、断固たる決意がうかがえます。

隊員は全7名で、皆さんボランティアとして月1回活動し、これからは、隊員の増員、実施回数の増加、行政との連携強化を検討しています。「地域を明るくするには、子どもたちの笑顔がたいせつなんです。活動を通して地域の大人がみんなを見守っているというメッセージを伝えていきたい」と語る藤川さん。その柔らかな表情のなかにも、厳しいまなざしがあり、断固たる決意がうかがえます。

ぷらっと・わらび・小さな旅

中山道の新しい楽しみ方

毎月第2日曜日の午後4時から、中山道本町通りの酒屋さんの前で、旬の食材を味わえる「日曜日の夕べ、中山道を賑やかにする会」が開催されています。中山道を盛り上げようという3つの個人商店を中心に、活気あるまちづくりを進める企画です。4月18日に開かれた第7回目のテ



わらびの野鳥・虫・草

ムスカリ

寒暖の差が激しかった4月。春らしい陽気の日には思わず出かけたくなります。錦町3丁目の市道わきでひよつこりと、ムスカリの花が顔を出していました。地中海沿岸が原産ですが、育てやすいこ

とから園芸用として広まり、今では市内でもよく見ることが出来ます。春先に青紫色の小さな花をブドウの房のように咲かせるところから、別名グレープヒヤシンスとも。草丈15センチですらっと生える姿は、柔らかな日差しをいっぱい浴びたいと、背伸びしているようでした。

ーマはイカ。足と肝を鉄板でいためる「ごろ焼き」は食材の鮮度が命とのこと。商店街のプライドを感じます。ほかにも、綿菓子やマグロの頭の蒸し焼きサービ

9日の予定です。会場は、西ルート29番目の停留所「蔵市役所」から北へ徒歩約5分です。



こうばしい香りに道行く人の足も止まります